



編集・発行
 地方独立行政法人 大阪府立病院機構
 大阪府立 呼吸器・アレルギー医療センター
 大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1
 TEL:072-957-2121
 FAX:072-958-3291
 HP: <http://www.ra.opho.jp>
 E-mail: kokyucen@ra.opho.jp

エイズについて 感染症センター長 松本 智成 (まつもと ともしげ)

今月はエイズの話をしていきましょう。

エイズウイルス (HIV) の感染に気づかないまま発症した新たな患者は2010年に、前年より22人増え、過去最多の453人 (速報値) だったと、厚生労働省のエイズ動向委員会が2月7日に発表しました。

症状が出ていないHIV感染者も合わせると2008年(1557件)に次いで2番目に多い1,503人で、感染者、患者ともに増加傾向が続いています。

新規患者数は2006年に400人を超えてからは、毎年増え続けています。患者のうち男性は435人、女性は18人でした。年代別では、30代が最も多く、40歳以上は半数以上を占めます。直近の10~12月の患者と感染者の合計は422人で過去の四半期中で最も多かったそうです。一方、保健所などで行われた検査や相談ですが、HIV抗体検査の件数は前年から1万9322件減の13万930件、相談件数は2万9007件減の16万4264件で、共に2年連続で大幅に減っているそうです。



HIVは早期に感染が分かれば、多くは薬剤治療で発症を抑えられます。患者の増加は、感染に気づかず治療を受けなかったことが、原因とみられています。大阪でも4日に1人の割合で新規HIV感染者が報告されています。

大阪におけるHIV感染患者診療を行える医療従事者の教育が急務となっております。

当センターも大阪府民のお役に立てるように診療のみならず医療従事者の教育に取り組んでおります。

婦人科内視鏡下手術について 産婦人科医長 安川 久吉 (やすかわ ひさよし)

私たち産婦人科は、手術を受けられる患者さんに少しでも身体的、精神的負担がかからないように日々努力をしています。以前は開腹でしかできなかった手術が、手術器具の進歩により内視鏡下で行う手術に変わり、身体的負担の軽減や入院期間の短縮が可能となりました。

婦人科で行う内視鏡下手術には、腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術があります。腹腔鏡下手術は、卵巣嚢腫(のうしゅ)、子宮内膜症、子宮筋腫などの良性の病気を対象としています。以前は体外法といいまして、4cm程度の小さい切開を入れ手術を行いましたが、現在は、体内法といいまして、お腹の中で手術を行い、数カ所の小さい傷で手術を行えるようになりました。手術後の回復も非常に早く、以前よりも早期退院が可能になりました。子宮筋腫などで子宮を腔から摘出する場合は腔式手術と腹腔鏡を併用し、安全に手術を行うようにしております。また、子宮鏡下手術は、子宮内に発生した子宮筋腫や子宮内膜ポリープなどの良性の病気を対



象としています。以前は子宮摘出でしか治療の方法がなかったものが、この術式の登場で、子宮の温存が可能となり、また早期に退院が可能となりました。

今後も患者さんの負担を減らすような手術をどんどん取り入れてきたいと思います。



<臨床検査科の紹介シリーズ(3)>

血液検査

臨床検査科血液検査室

鈴木 麻友香

皆さん、こんにちは。今月は、血液検査についてのお話です。皆さんは、「貧血」という言葉を耳にしたことがありますか？なんだか動悸や息切れがする、立ちくらみがする、周りの人に顔色が悪いと言われる。そこで病院に行ってみると貧血だと言われた、そんな経験をされた方もいらっしゃると思います。

貧血症とは、私達が生きていくうえで必要な酸素を運ぶ運搬車（赤血球やヘモグロビン）が足りていない状態です。一口に貧血と言っても赤血球の数が少ない場合もありますし、ヘモグロビンが少ない場合もあります。それらを詳しく調べるための検査が血液検査です。検査の結果からさらに細かく赤血球の大きさで3つに分類したりもします。赤血球の大きさが大きなタイプ、正常なタイプ、小さなタイプの3つです。例えば体内の鉄分が不足すると正常な大きさの赤血球が造れず、ヘモグロビン不足の小型で薄っぺらな赤血球が造られます。このような状態では体が必要とする量の酸素を運ぶことができず、疲れやすくなったりします。貧血症例の多くがこのタイプのもので鉄欠乏性貧血と呼ばれます。小さな頃から鉄分をたくさん含むほうれん草やレバーを食べようと言われるのは、この鉄欠乏状態を防ぐためだったのです。

他にも血液検査でわかることはたくさんあります。風邪を引いたかなと思ったときに血液検査してみると、白血球数が増えていることがよくあります。白血球はその形状や機能によって好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球に分けられ、病気を防ぐための第一防衛線の役割を果たしています。一般的に細菌や真菌感染症の場合には好中球が増加し、リンパ球が減少します。またウイルス感染症では好中球が減少し、リンパ球が増加します。相手によって闘う武器を変えるという妙技をやっているわけですから、まさに血液検査は戦場を覗いているようなものだと思います。

今回は「貧血」を中心に血液検査について書かせていただきました。「貧血」の裏に様々な病気が隠れていることもあります。疲れやすい、立ちくらみがひどい等の症状がある方は一度検査されてみてはいかがでしょうか？

3月の教室案内

* カンガルー教室

● 3月2日・16日・23日

午後1時半～ 第1会議室

* 喘息教室

● 3月17日

午後2時～ 第2会議室



献血にご協力ください！！

平成23年3月2日(水)午前10時～11時30分・午後0時30分～4時30分
場所:管理診療棟前 対象:400ml献血(18歳以上、体重50kg以上の方)